# 研究・調査報告書

| 分類番号 | | 報告書番号 | 担当 |
|---|---|---|---|
| A-133 | A-141 | 20-081 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之 |

**題名（原題／訳）**

Associations between solitary drinking and increased alcohol consumption, alcohol problems, and drinking to cope motives in adolescents and young adults: a systematic review and meta-analysis
青年および若年成人における独酌と動機に対処するための飲酒および飲酒量の増加とアルコール問題との関連：系統的レビューとメタ分析

**執筆者**

Skrzynski CJ, Creswell KG.

**掲載誌**

Addiction. 2020 Nov;115(11):1989-2007. doi: 10.1111/add.15055.

| キーワード | PMID |
|---|---|
| 青年、アルコール使用障害リスク、独酌、社会的な飲酒状況 | 32196794 |

**要　旨**

**目的：**近年の研究で、社会的な環境から飲酒することが多い青年および若年成人の独酌が、アルコール使用障害への重要な初期のリスクマーカーである可能性を示唆している。青年および若年成人の独酌と、アルコール問題、飲酒量の増加、および動機に対処するための飲酒との関連を初めて系統的レビューおよびメタ分析により調査した。

**方法：**PRISMA 方法論と PROSPERO プロトコル（番号 CRD42020143449）を用いて、PsychINFO、PubMed、Google Scholar から対象となる論文を検索した。サンプルに含まれた青年(12～18 歳)と若年成人(18～30 歳または参加者の大多数が 30 歳以下)が自己報告した独酌と動機に関するデータは、すべて変量効果モデルを用いて分析した。

**結果：**528 件の論文が特定され、系統的レビューには 58 件が含まれた。28,372 名の参加者を含む 21 研究(全 28 論文)からのメタ分析結果は、独酌と次の要因との関連に有意な効果を示した：飲酒量の増加、r=0.23,95％信頼区間(CI)=0.12,0.33；アルコール問題、r=0.23,95％CI=0.13,0.32；負の感情、r=0.21,95％CI=0.16,0.26；社会的不快感、r=0.17,95％CI=0.06,0.27；負の強化、r=0.28,95％CI=0.24,0.31；正の強化、r=0.10,95％CI=0.03,0.17。これらの関連は、年齢層・研究の質・独酌の定義の違いによって緩和されなかった。出版バイアスを検討したところ、効果量は、飲酒量が r = 0.23 から 0.34、アルコール問題が r = 0.23 から 0.30 に増加し、正の強化と社会的不快感は r = 0.10 から 0.06、r = 0.17 から 0.11 へとそれぞれ減少した。

**結論：**青年および若年成人における独酌は、心理社会的/アルコール問題および動機に対処するための飲酒と関連しているように思われる。